

ふれあい

TASHIRODAI



日本医療機能評価機構認定病院

医療法人社団
豊美会

田代台病院・精神科・神経内科・内科

発行責任者：院長 中邑義継 〒754-0122 山口県美祢市美東町真名2941番地 TEL 08396-5-0301 FAX 08396-5-0861

病院理念

心や生活機能に障害をかかえるお年寄りの治療の為に、
職員一同が、家族や地域の方々と連携しながら、
医療、看護、介護や啓蒙を総合的に提供していきます。

看護理念

「和」の精神のもと、患者・家族・地域の皆様の
期待に応えられる看護を提供します。

日本医療機能評価機構
認定第 JC1735 号

田代台病院は、よりよい医療を提供
していくために、日本医療機能評価
機構の認定を取得しています。

認知症とうつ病

副院長 工藤 良二（精神保健指定医）

認知症とうつ病、関連性のない疾患であればよいが、どうもそうはいかないようである。

高齢者のうつ病が、認知症に移行することが、少なくないことはよく知られているが、認知症の前駆症状としてうつ病があるのか、うつ病に罹患することで認知症に移行するのか議論されてきた。最近ではうつ病が、認知症に移行するという説が有力である。一応前もって付け加えておくが、参考にした研究論文は、全て信頼性が高く再現可能な研究である。



①高齢者うつ病では脳血管病変が多く、それが認知症への移行に関与している。

②アルツハイマー型認知症、アルツハイマー病の原因ともいわれるアミロイドβタンパクの代謝異常が幅広い年齢層のうつ病患者の血中アミロイドβ測定により支持されている。

以上よりいえることは、高齢者うつ病では脳血管病変に加えてアミロイドβの代謝異常により認知症へ移行するリスクが極めて高いこと、若年発症の認知症もうつ病に罹患すること、さらにうつ病を繰り返すことで発症リスクが高くなるということである。

認知症・うつ病ともに注目される疾患であるが、現段階では予防～早期治療の可能なのはうつ病の方だけである。しかし、うつ病の早期治療を行い再発の予防に努めることで認知症の発症リスクを低下させるとともに仮定ではあるが、BPSD で認められる抑うつを早期治療することで認知症の悪化を防げる可能性もある。

とかく発症後のケアに目が行く認知症であるが、医者の本業である治療という観点から認知症に対してまだまだやれることはありそうである。

この文章を読んでご心配な方は是非当院へご一報いただきたい。



厨房で食事を提供しています

栄養科

田代台病院の厨房は、平成 21 年 4 月オール電化厨房に変わりました。電化厨房ではガス厨房のようなガスの燃焼に伴う排熱や排ガスの発生がありません。また、空調設備により **HACCP** (衛生管理)* が求める室温 25℃以下・湿度 80%以下に常時管理され、厨房内は清潔区域と不潔区域も完全に分けられたレイアウトになっています。これにより安心できる衛生環境と快適な職場環境の両立を実現しています。さらにクックチル（新調理システム）でスチームコンベクションオーブン（スチコン）を使った前日調理で、時間的に今まで出来なかった手作りメニュー（ハンバーグ・コロケ・茶碗蒸し等）や、真空調理による、豚の角煮や骨まで軟らかく食べられる魚（イワシ・さんま等）など、患者さんに提供できる料理の幅が広がり、デザートも、焼きプリン・グリーンピースプリン・チーズケーキ等、変化をつけ、患者さんに楽しみながら食べてもらえるメニューを提供しています。

また、毎週水曜日はメニューをアレンジし、患者さんの「お楽しみの日」として喜んでいただいています。

栄養科は、患者さんの病態や嗜好を考慮し、安心・安全で美味しく、喜んでいただける食事を提供して、患者さんの病気回復をサポートしています。

患者さんから「おいしいよ！」の言葉と笑顔を励みに職員一同頑張っています。

***HACCP** (Hazard Analysis and Critical Control Point)

…食品の中に潜む危害を除去できる工程を常時管理し、記録する方法



ある日のメニュー

- ・ たけのこごはん
- ・ エビフライ タルタルソース
- ・ フルーツ（みかん）
- ・ かき玉汁

調理中のひとコマ



温度・時間をセットすることで料理が均一にできあがります。

見学も随時可能です。
ご希望の方はご連絡下さい。
(栄養科科长 岩本 淑子)



認知症 ケアのポイント

今回の テーマ

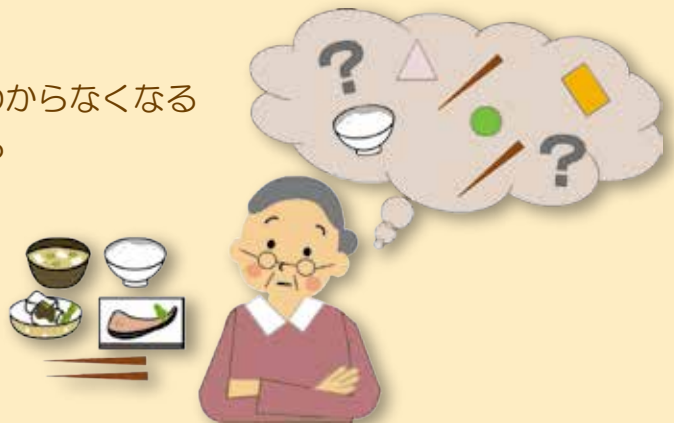
【食事を食べようとしない】

田代台病院 精神科看護・介護勉強会 認知症部会

認知症の方の中には「最近、自分でご飯を食べようとしなくなった。眺めてばかりいるのが多くなった」ということがあります。それがなぜ問題なのでしょう？
高齢者にとって食べないということは、すぐに脱水や栄養不足に結びつきます。
今回は「食べようとしない」ことの原因と対応の一例をご紹介します。

I. 原因となる認知症の主な症状

- 食事の手順がわからなくなる
 - 箸やスプーンなど道具の使い方がわからなくなる
 - 食べ物を食べ物と認識できなくなる
 - 食欲がなくなる
- などがあります。



II. 対応の方法

- **きっかけを作りましょう。**
「お箸を持ってどうぞ」と声かけをするなどきっかけを作るとその後スムーズに食べられる事があります。
- **一緒に食べるのも効果的です。**
他の人が食べるのを見ることで道具の使い方やこれが食べ物であるということを認識するヒントになります。
- **メニューや盛り付けを工夫してみましょう。**
おにぎりなど手に持って食べるものは、道具を使わずに食べることができます。
白い茶碗の中の白いご飯はわかりにくい等、食器や盛り付けが関係していることもあります。



III. その他の原因

環境に変化はないでしょうか？近頃よくむせませんか？入れ歯は合っていますか？

認知症になると自分の体の不調を訴える事が難しくなります。実は便秘や歯痛、体の病気が食べない原因かもしれません。また、薬によっては副作用として食欲低下が現れることもあります。まずは「なぜ食べようとしなくなったのか？」という原因をみつけて、それに合った対応をしていきましょう。

デイ・ケア なごみ通信

「お花見ドライブ」 ～山口維新公園～



4月の初め、山口の維新公園にお花見ドライブに出かけてきました。

「桜が間に合うかねえ」「天気が晴れるとええけどね～」と心配しながら、テレビの開花予報やなごみの桜の木と毎日しらめっこ。

当日は、雲一つない晴天で絶好のお花見日和となりました。維新公園の桜並木も満開で、あまりの美しさに「わあ～…」と思わずため息。それでも、腹が減っ



ては何とやら。お昼のお弁当を食べ始めると、桜はそっちのけ。「花より団子



じゃね」「桜じゃー腹は太らんからね」のやり取りに大笑い。手拍子で歌ったり、集合写真を撮ったり、桜並木を歩いたり、帰りは湯田温泉駅の足湯にもちょっと寄り道。「今日はよう遊んだね～」と心地よい疲れに、帰りの車は皆さんウトウトされていました。

認知症では、昼と夜が逆になることもあります。外に出て体を動かすことで夜に眠りやすくなったり、日の光を浴びることで昼と夜の生活リズムが整いやすくなったりします。

作業療法士 上田 貴弘

第9回 に・フォーラムinなごみ ～高齢化社会と仏様の智慧～

日 時：平成26年6月14日（土）

13:30～16:00

場 所：田代台病院 デイ・ケア「なごみ」

講 師：南 健司 氏

（曹洞宗 高倉山願成寺 副住職）

夏祭りの開催日が決定しました

夏祭りの開催日時が下記のとおり決定いたしました。

昨年はあいにくの雨で、開催以来初めての屋内開催となりましたが、本当に多くの方々にご来場いただきました。今年も職員一同、皆さんに楽しんでいただけるよう準備をすすめています。祭り当日までしばしお待ちください。

【 開催日時：平成26年8月23日（土）18:00～20:00 】

【 開催場所：当院東病棟前広場（雨天時：西病棟ホール等） 】

編集 後記

「ふれあい」の発行も3回目となりました。5月の連休はどうでしたか？「連休なんてないわ」とおっしゃる方も多いと思います。忙しい日々の中、ゆっくりと自分の時間を持つことも大切です。外の空気を吸ってポーっとしたり、気の合う人と何気ないおしゃべりをしてみたり。誰かに話を聞いてもらうだけでも心がスーッとしますよね。

さあ、今日も1日元気よく！！

（岡崎）